

第5回中野区基本構想審議会 部会（都市・防災・環境）

○日時 令和元年9月6日（金曜日）午後7:00～9:00

○会場 中野区役所7階 第5、6、7会議室

○出欠者

1 部会委員

出席者

饗庭 伸、興梠 与利子、五味 道雄、佐土原 聡、
甚野 誠一郎、鈴木 照男、吉村 芳明

欠席者

岡本 秀子

2 事務局

危機管理課長 田中 謙一

防災担当課長 山田 健二

環境課長 波多江 貴代美

ごみゼロ推進課長 伊東 知秀

清掃事務所長 川本 将史

都市計画課長 安田 道孝

まちづくり計画課長 千田 真史

大和町まちづくり担当課長 菊地 利幸

中野駅周辺まちづくり課長 松前 友香子

中野駅新北口駅前エリア担当課長 石井 大輔

【議 事】

○饗庭部会長

定刻になりましたので、ただいまより中野区基本構想審議会の都市・防災・環境部会第5回を始めたいと思います。本日は岡本委員からご都合によりご欠席という連絡をいただいておりますが、半数以上の部会委員の方に出席をいただいておりますので、会議としては有効に成立するということで、進めさせていただきたいと思います。本日も9時を目途に終わりました。

いと思っておりますので、進行へのご協力をよろしくお願いいたします。

お手元に議事次第がございますので、それに沿って進めたい思っておりますが、まず、本日配付資料の内容について事務局より説明をお願いいたします。

○永見基本構想担当課長

それでは私の方から説明をさせていただきます。次第の裏に資料一覧ということで書いてございます。資料1が都市・防災・環境部会審議内容ということで、これまでの審議内容をまとめたものでございます。資料2ということで、新しい基本構想を考える職員プロジェクトチーム提案書というものもお配りをしてございます。

最初に資料の2の方から説明をさせていただければと思います。こちらの職員プロジェクトチームは、今年の4月に区役所の中に設置をいたしました。若手の職員を中心として、審議会の部会の単位で四つのグループに分かれて、現状の分析等を行って提案書の作成をいたしました。4月から始めて8月まで、いろいろと研究をして提案書を作成したものでございますので、差し支えなければ、答申で、盛り込んでいただければというふうに考えているところでございます。表題は、公共空間における人々のつながりがより安全で豊かな生活につながるまちということでございます。現在の状態でございますが、中野区はアクセスのよさがあり、サブカルチャーの知名度が高い。また住みやすさランキングが上位であるといった特徴もあると。その一方で子供たちが、遊べる場が少なかったり、災害危険度が高い地域があったり、また地域のつながり、地域の情報を知らないといった課題もあるということでございます。強みとして、生活利便性の高さ、また知名度の高い施設があること。また、都心に出やすいこと、多様性を受け入れるまちという性質、若い世代の流入が多いこと。住みたいまちランキングが上位である。公園面積は少ないが数は多いこと、人口密度が高いことなどが挙げられてございます。弱みとして、ファミリー世帯が少ないことや災害危険度の高い地域が点在している。また、公園の1人当たり面積が多くないということ、地域活動に参加できない参加したことがないといった地域とのつながりを持っていなかったり情報を知らないという人が多いということがございます。裏面をご覧くださいまして、10年後の目指す姿として、二つ提案がございます。どんな時でも利用しやすく、環境に配慮された公共空間が創出されているまちということで、公園や施設の整備だけではなく、既存の施設や空き家等についても創意工夫により、いつでも誰でも気軽に利用でき人々が集う空間として各地に整備されていると。そういった提案でございます。中身としては、公園が整備され、生物の多様性の確保、憩いの場、また防災公園として機能している。再生可能エネルギーに

よる電力供給システムの配備、また地域の遊休資産。空き部屋、空き家などがコミュニティ形成する場として創出できているということです。2番として、区内各地域の拠点となる公共空間で充実した住民活動が営まれているまちということで、公共空間で人々の交流、つながりが広がっているということでございます。ポイントとしては、多様な世代がつながる、また地域で顔が見えるといったことで、災害時にも助け合える関係性ということでございます。またですね、防災関連も含めた、様々なイベントが開催されて地域コミュニティの場として、活用され、災害に強い街になってると。アプリ等を活用した、公共施設の空き状況などがわかるアプリということなんですけれども、こういったものを活用して集まる機会が増えている。それから既存の空間についても、例えば民間事業者の提案などを受けたりしながら魅力的な空間として使われているという点でございます。実際は様々なバックデータがあるんですけれども、提案書として、説明させていただきました。

続いて、資料1に戻っていただければと思います。こちらの資料につきましては、これまでの部会での様々なご審議をまとめさせていただいて、次回全体会の時に、答申の案という形でまとめさせていただくにあたりまして、これまではマトリックス、4分割の形で作っていた資料を文章体にまとめさせていただいております。まず初めに、全体の目指す社会の姿ということで、これまでの部会の審議を踏まえまして、区民との協働で魅力を作る環境負荷の少ない持続可能なまちということで社会の姿を我々の方でまとめさせていただきました。超高齢社会、人口減少社会が到来している中で、多様な方々の一人一人の個性が十分に発揮されて、誰もが輝けるまちを推進していくために、子どもから高齢者が日常時も非常時も安全・安心に暮らせるとともに、今後も住み続けたいくなるような環境負荷の少ない持続可能な都市づくりが求められている。また、中野駅周辺や西武新宿線沿線のまちづくりが進み、新たなまちの基盤が次々と創出・再生されていく中で、区民を中心とした多様な主体と共働してまちづくりを進め、中野区ならではの魅力を最大限に発揮し、暮らす・集う・働く場所として人々の活気とにぎわいがあふれるまちを形成していくべきであると。そのような形でまとめさせていただきました。それから、重点テーマが5つございましたが、一つずつ紹介をさせていただければと思います。アンダーラインを引いてる箇所は10年後にこんな状態であるべきだという内容でして、その前に書いてあるのは、現状の課題や必要性になっていきます。

最初に「(1) 快適で魅力ある住環境」ということで、住宅の環境というところが主になりますが、ユニバーサルデザインに配慮した住環境が整備され、地区特性等に応じて建て替

えの誘導や良好な住環境保全が図られることで、子どもから高齢者まで長く住み続けたいと思えるまちが形成されている。続いて公園のことですけれども、公園がそれぞれの個性を持ち、安全快適な環境が整うとともに、地域や民間団体等の協力により適切に管理されることで、子どもから高齢者まで様々な人々が集い、憩い、遊び、にぎわう場として親しまれている。また空き家・空き地の活用というところ、空き家や空き地等が民間事業者等との連携において適正に管理され、地域のために有効に活用されている。続いてまちづくりの実証実験に関することですね。実証実験などの手法も取り入れながら、誰もが気軽に参加することができる協働のまちづくりが進んでいる。次が景観、空間の活用というところで、にぎわいのあるまちづくりを実現するために、中野の景観や空間を活用し、多様な主体による新たな行動が生まれ、まちの魅力となっている。続いて、道路また歩行者空間といったところですが、都市の骨格となる道路ネットワークの構築が進み、すべての人にとって安全・安心なユニバーサルデザインに配慮した歩行者空間が確保され、居心地がよく歩きたくなる、まちなかづくりが進んでいます。続いて交通ネットワークというところで、公共交通機関など環境負荷の少ない多様な交通手段が整うとともに、円滑な乗り換えなどシームレスな移動が可能となり、誰もが気軽に利用できる環境が整っていると、一部、区として補強、補足した表現もごさいますが、このような形で(1)の部分をまとめてごさいます。まず(1)についての説明は以上でごさいます。

○饗庭部会長

えっとですね、(1)から(5)にあるんですけども、全部やってしまうと多分最初の方は忘れてしまうかと思いますので、ちょっとまず1回、一旦(1)で切らせていただいて、今、永見さんからご説明いただいたことで、字句の修正も含めてですねこういうことが足りないんじゃないとか、そんなことがあればいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

○佐土原委員

最初の1の区民と協働で魅力を作るっていうところですけども。これは主語は誰でしょうか。区民との協働っていうことは、誰がというのが主語になれば、協働で魅力を作るになるんですけど。区民とのっていうことは誰か主語がいる感じなんですね。そこはちょっとわからないのと、それから下から3行目のところで、区民を中心とした多様な主体と協働してつくるまちづくりとなっていて、これも別に主語があるように見えるんですけど。この辺りはどういう整理になってるか教えてください。

○永見基本構想担当課長

はい。すいません失礼いたしました。行政が区民と協働するというような意味合いで書いておりましたので、ちょっと表現は工夫させていただきたいと思います。

○佐土原委員

位置付け的にはこれは区と区民の共同宣言っていうか、主語は区と区民になるんですかね。基本構想って。

○永見基本構想担当課長

基本構想そのものは、区民の共通目標ということですよ。

○佐土原委員

区民も主語になる形で表現されるっていうことになる、という理解でよろしいですか。

○永見基本構想担当課長

はい。どちらが主ということではなく、いずれも並列の関係で協働するということになるかと思います。

○饗庭部会長

じゃあちょっと(2)に行きましようかね、また戻ってきても結構です。他と比べてここは変だってこともあろうかと思えます。では、(2)、(3)ぐらいやっちゃいまいしょうか。説明をお願いします。

○永見基本構想担当課長

それでは説明をさせていただきます。「(2)世界に開かれた都市活動とにぎわいの拠点」でございます。中野駅周辺を主に書いておりますけれども、まちづくり事業が進んでいくところで中野駅周辺は地域の発展に資する多様な都市機能が集積され、文化芸術活動、商業活動等が充実し、回遊性が高まり、あらゆる人が快適に行き来し、実効的なエアーマネジメントが行われ、まち全体の質や価値が向上し、周辺地域への波及効果も生まれている。続いて、こちらは多様な主体のネットワークということですが、中野の多様な主体がつながることで、新しい魅力が生まれ、その魅力が中野から世界に発信されている。3つ目が中野らしさというところですが、変わるものと変わらないものが共存し中野らしさが形成されている。

続いて「(3)地域のにぎわいの創出・再生」というところですが、西武線沿線の連続立体交差事業等が進行していくということですが、西武新宿線沿線では連続立体交差や交通基盤の整備が進み、踏切や線路による地域分断や交通渋滞の解消とともに

に、駅前の交通結節機能の強化や、安心して買い物ができる空間整備がなされ、地域の安全性、利便性が向上している。続いて、にぎわい、また外出したくなるようなまちの創出ということで、西武新宿線の各駅周辺では地区の特性に沿った将来像の実現に向け、新たにぎわいの創出や交通基盤の整備防災性の向上を目指したまちづくりが着実に進み、高齢者等が外出したくなるまちの魅力が創出されている。続いて、商店街のことをございます。歩いて買い物に行ける身近な商店街が区民の交流や子どもの社会体験の場となり、地域のにぎわいが生まれている。続いて鉄道上部の空間ということで、連続立体交差化に伴い生じる鉄道上部の空間については、地域の要望と社会ニーズを踏まえ、所有者である鉄道事業者等との調整が進めると、そのような形でまとめてございます。以上ございます。

○饗庭部会長

お気づきのことがございましたらお願いいたします。では、鈴木委員お願いします。

○鈴木委員

3番目のですね地域のにぎわいの創出・再生についてなんですけども。前回もお話が出たんじゃないかと思うんですが、これ見てますとね、西武線沿線中心なんですよね。他が全然出てない。確かですね、他の地域も同じようにいろんな課題があつてですね、それを検討していくっていうお話があつたんじゃないかと思ひます。ちょっとその辺がですね、欠けているのではないかと思ひます。それとですね、1番目の、快適で魅力ある住環境の中で、3番目のですね、4番目ですか、まちづくりの進め方の中で実証実験などの手法というような言葉が出てきていますけども、その実証実験とは具体的にどういふことを指してるのか、お示しいただきたいと思ひます。

○饗庭部会長

では、お願いいたします。

○千田まちづくり計画課長

まちづくり計画課長の千田です。まず最初にいただいたお話ですけど、こちらの地域のにぎわい創出・再生ということで、特に西武線がクローズアップされているところですけど、おっしゃる通りまちづくりのテーマとしては、やはり駅前という一つの環境についていろいろ検討がなされるべきという認識がございます。ただ、また一方でですね、基本構想というところの理念で考えますと、中野区で極めて特徴が高いというのが、やはり連立事業とこの中野駅ということで、それ以外の駅についてはですね、都市マスタープラン等そういった策定の中で、エリアごとにこの駅前等のあり方ということで定めていくのも一つかなとい

うこともございますので、駅前全体というテーマでこの中に織り込んでいくかどうかですね、また事務局の方と少し相談させていただきたいと思います。

○永見基本構想担当課長

先ほど実証実験にどういったものかということで、これは、吉村委員の方から実証実験に関するご提案があったかなと思っておりまして、もしよろしかったらちょっと委員の方からご紹介いただければと思います。

○吉村委員

吉村でございます。実証実験というのは、車の何ですか。A I を使ってですね無人でできるとかっていうようなこともあったり、どんなことが今後できるかということの実証実験があるんでしょうけども、私がここでお話してるところっていうのは、一つはその中野というコンパクトな中でのまちのつながりとかまちづくりとか今後のまちを考える上で何かモデルになることをこの町に持ってくることによって、整備することとかですね、まちづくりをすることのあるきっかけができるんじゃないかなというふうに思ってます。1つはですね、職員の方々が作った資料の中で、さかんに公共空間という話が出ておりますけども。公共空間も一番ポイントになるのが、道路なんかの使い方だと思うんですね。今多いのは、都心地域で多いというのはその道路をある程度閉鎖してしまうとか、これは丸の内周辺なんかそうですね。そこをもっと魅力的に人の空間にするっていうようなことを、実証実験でやってるようなことがあります。それがどんな影響が出るか出ないかということで、どれだけメリットがあるとかデメリットがあるかということだと思んですが、それを見つけることによって、その制度を変えていくとか、新しく何か政策にしていくとかっていうことの試しをすることと思うんですね。そのために決まったこととか今までどこかであるようなことではなくて、もっと先駆けになるようなことを中野の中で起こしていくと。それも今一番最初にあるような、区民とともにとありますから、当然区だけではなくて住んでいる方々が一緒にやっていくっていうことができるような、それを実証実験という言葉で言うてはいるんですけども、何かそのトライアンドエラーということですかね。そういうことができてる試みをしていこうじゃないかっていうことになるんじゃないかなと私は理解をしてお話をさせていただいたつもりです。ですので、1つの大きな例としては、愛媛市の北口に広場ができましたが、その広場に対して車をやはり入れないようにして、公共の車、ずばりバスとかタクシーだけにして、民間の車を入れないというようなことのどれだけ不都合が出るかっていうような実験をしてるわけですね。そういったことを含めた中野駅

前だけではなくてもですね、今のところで、今までとはちょっと違う規制緩和だとか、逆にもっともっと人に優しくしていくことっていうことをやったらどうかっていうことの意味だというふうに理解いただければというふうに思います。説明になったかどうかちょっとわかりませんが、すいません。

○饗庭部会長

鈴木さんの感想というか、一言いただけますか、今の話をうかがってどうだということ。

○鈴木委員

吉村さんの言われているのはよくわかるんです。だから、別にそれはいいんですけど、行政の方で、その言葉を取り入れてやったから、何か方策というか具体的な検討がなされたのかなと思ったものでお聞きしました。

○饗庭部会長

何かありますか。補足とか追加で

○永見基本構想担当課長

吉村委員がおっしゃっていただいたような趣旨で書いたところでございまして、委員のご意見をくみ取って、答申の部会のまとめということで、まとめさせていただいたということでございます。

○饗庭部会長

お願いします。

○甚野委員

地域のにぎわい創出の2番目の項目のところですね。西武新宿線各駅周辺ではっていうことでずっといったところで、最下欄のところなんですけど、高齢者等が外出したくなるまちの魅力が創出されているというふうに記載いただきました。確かに会議の中では高齢者が出て来やすいようにとか、そういうふうな形でお話をさせていただいた記憶がございます。ただ、こういうふうな文章になってみると、高齢者っていうふうに区切るのではなくて、例えばなんですけどこれ誰もがというふうな言い方に変えることによって、区民全員に対して波及できる内容になるのではないかなというふうに思いましたので、文言の方ちょっとご検討いただければと思ひまして発言させていただきました。以上です。

○饗庭部会長

回答的には、そのとおりでよろしいですかね。

○千田まちづくり計画課長

まちづくり計画課長の千田です。今いただいたお話のところ、実際のまちづくりの検討を進めるにあたってはですね、子どもから高齢者、また障害等お持ちの方までですね、多様な区民対象にいろいろ必要な公共施設公共空間の検討しておりますので、今、委員おっしゃるとおりだなということでは思ってるところです。ですから必要な措置をですね、事務局の方と検討させていただいて、今いただいたような方向だと思います。

○饗庭部会長

はい、じゃあ五味委員お願いいたします。

○五味委員

昨年と一昨年通じまして中野前区長の頃から空き家審議会っていうのに私メンバーで入ってました。それなりに空き家対策をやったんですけど。空き家対策の座長もいましたし、最終的には、中野区が、いずれ人口が、今増えてるわけで、将来減っちゃうだろうという極端に今そう、日本の人口が今1億2,000万のやつが40年経つと約4,000万減るだろう。これは社会学者が講演したんですけど、これは嘘でも何でもないと。これまことことで、どう考えても、4,000万減るだろう。ということの中で考えると、私設計事務所を始めてもう60年も経ちますけど。50年前はですね、どんどんどんどん増える時代に建物をやったりしたわけですけど、今の社会学者の論法によりますと、逆にですね40年後は、都市は衰退するだろうと。そういうことを言ってるわけですね。だからサンプルができたのは40年前で将来サンプルが極端な言い方だけど、なくなってしまうのかな。まず、そういう言い方、議論があるわけですね。それで、私ども座長に質問したんですけど。じゃあ、なぜ中野がそういう一番、23区中でも人口がどんどん減るのかって言いましたら、それは空き家が増えて、それから、社会基盤が悪いという。原因は、社会基盤でなしている広場の面積が狭いとそれが道路幅が二項道路って言って4メートル以上の幅員の道がですね、今やまだ延べ350キロもあるんですね中野は。だからそれは23区中ワーストワンだということ。それに加えて、木造密集地が多いってことは非常に将来の中野区っていうのは、23番目になるだろう。そのような厳しい指摘を受けました。その話を講演の最中に、中野区長も見えまして、酒井区長も熱心に聞いておられた。

だから、ちょっとわからなくなったということがありますから、とにかくこないだの全体会議の中でも女性のオブザーバがこういうことを言ってましたね。杉並だとか練馬に比べると、ことに幼児教育をする幼稚園だとか保育所の面積が狭いのだと。狭い保育所の人たちは児童だとか幼児を公園に連れて行って遊ばせるとそういう非常に子を育てる側からいく

と、人間が将来育つためにはそういう悪い環境の中で育てたくないから、他の区に移住してしまうということを、このあいだ全体会議の時におっしゃっていました。まずそういう土地社会基盤をですね、今、ちゃんと作っておかないと人口が減るときに対応できなくなっちゃうということがありますから、どうしてもですね、それを貫徹してもらいたい。

ちなみに私は、中野区の都市計画審議会の専門員を26年前にやったんです。その時に平和の森公園ですか。あれが監獄の跡地だったんです。6ヘクタールあるんですね。23番目の中野区ですから。それは絶対に公園にすべきだと主張しまして、公園にいたしました。こないだ区議会で、あれは公園じゃなくて運動場、300メートルトラックを作るんだ。ということがありました。こないだの我々の設計事務所協会のが議会の各会派から呼ばれて、こういう過去の23年前に決まったのは、公園じゃなくなっちゃったと。そういうのは都市計画が入らないよという、都市計画審議会の批判もしたんですけど。そういうことをどうして、時間が長いわけですから。長い目で見てよくしっかり考えてやらなければ、今の問題じゃないんですね、にぎわいがあるとかも。この今、中野区はあと10年は人口の増えるだろうと言ってますけれども、それよりももっと長い視野で考えなきゃまずいというふうに感じます。だから以上、申し上げると皆さんも大体都市っていうのは大変だなということを感じられると思いますけど、そういうことが問題で、この場で解決するような審議にしてもらいたいと思います。

○饗庭部会長

事務局から人口が減っていくぞっていうところに対する、なにか覚悟がどれぐらい示されるかということかなというところもひとつ受けとめたんですけども、何かそういう構造的なものは、ありますか。なさそう。

○千田まちづくり計画課長

では、まちづくりの方から少しお話しさせていただければ、今の我々の部署、この中野駅とかを除くですね、西武線沿線とかそういったところのまちづくり等を行っているんですけど、今、委員からいただいたような長期的な都市構造のあり方という視点で今後、特に野方以西については、さらにこれから詳細なまちづくり進めていくところですので、基本的にはそのような長期的な視点の中で、必要とされるような公共空間の確保から進めていきたいということで考えております。

○饗庭部会長

はい、ありがとうございます。他いかがですか。じゃあ吉村委員よろしくお願いま

す。

○吉村委員

3番目の地域のにぎわいの創出・再生なんですが、先ほど鈴木委員からございました西武線だけみたいなどころの話とともにですね、もう1点はこの3月に東京都から新しく都市を作り上げるっていうことで、これは規制緩和もあるかもしれませんが、環七の内側、今までですと山手通りの内側くらいだったんですけど、環七の内側っていうのも一つの範囲になってきて、そこで用途等の見直しだとか、それから容積の話だとかっていうのが出てきているわけですね。これは決してどんどん開発するわけじゃなくて、いかにそこに付加的な要素のものですから、育成用途とか入れてですね、まちをもうちょっと多様にしようということだと思うんですね、その時に、こういった沿線の話もあるんでしょうけど、もう少しそうではないところの、例えばやっぱり老朽化している場所とか、それをどうやってまとめ直して再整備するかというようなこともですね、たぶんこれから先まちづくりのためのキーになるのではないかなというふうに思います。ですので、この活力とにぎわいの拠点地域ということで、中野の中で中野の駅前の地域と東中野とそれから中野坂上が3つモデル地域として上がっているわけなんですけど、もうちょっとここらではできるんじゃないかということを探し出すこともですね、これから先10年かかってでたぶんやる。ことができるんじゃないかと思うんですね。そういう意味ではもう少し広げた話として特に環七の内側なんかでの再整備といいますか再生といいますかね。そういったことをやはり打ち出していくことも必要なんじゃないかなというふうに思って今お話をさせていただきました。

○饗庭部会長

事務局からございますかね。

○千田まちづくり計画課長

まちづくりの展開ということでの話しいただいてるところだと思うんですけど、やはり、まちづくりの中っていうのは、この今のまちのこの現状それから課題というものから、それに対して、どのようなまちの将来像を定めて展開していくかということにあるかなということ考えてます。その中で大きいのについては、やはり防災上の視点からこのまちの危険度とか、まちの構造的なもので急務な改善、いわゆる安全性の視点から改善が求められるもの。特に地域危険度とかの評価を、今の東京都の方からも出ている。そういう状況もございまして、そういうところについてはその課題をいかに解消するかということが視点になってくるかなと思います。一方の東中野の先ほど事例もいただきましたけど、やはりこの

立地からそのまちのポテンシャルがちゃんと生かされてるのかという視点の中から必要なまちの構造を、改変していくというような取り組みが必要になってくるという認識もございます。その際には先ほど委員おっしゃったように、環六の中であつたり、環七の中であつたり、そういった中でやはりこの立地的なポテンシャルというのは、そこの中の視点の中で評価されて、検討されるべき事項ということも考えておりますし、我々も東中野とかそういった立地的な課題の中から取り組んでるところも今行っているところでございます。

○吉村委員

今、3番ところから、にぎわいということで関係したんですけど、実際にはやはり、4番目のこの災害ということじゃなくて、ものの老朽化みたいなところがあつて、なかなかそこに手をつけられないような建物もこれから先随分出てくるし、だから、ましてやその道路について整備できないということがあるならば、そこに対して、新しい制度とかですね。それから都がするとか、国がするとかっていうことの施策に対してしっかりとそれを区として受けとめて実際にやっていくと。手も上げると。先ほどの実証実験じゃないけどモデルケースとしてやれるとかいうことをやはり積極的にやっていくような姿勢をお出しになることも必要じゃないかなと思います。それは当然区だけじゃできない。当然区民と一緒にやると、そのために、まちと一緒に作っていくんだと。いう姿勢をやはり宣言するといいますかね。そんなことを挙げていただくことも必要なんじゃないかなというふうに思います。以上です。

○千田まちづくり計画課長

今いただいた話の補足として、おそらくスポット的なお話を今ちょうだいしたかなと思うんですけど、昨今、空き家というものが問題となっているのと同様にですね、今後はやはり建て替えに困窮するマンション、共同住宅というのが課題になるんじゃないかと。いうことは、やはり我々のこのまちづくり、都市整備の中では、今後懸念される事項の一つとして挙げられてるというところでございます。これについてはやはりですね、建て替えをいかに支援するか、そうは言ってもですね、やはり都市構造としてのバランスも確保しなければいけないと。つまり建て替えしやすくするための支援として、大きな建物を建築できるような制度を導入したとすると、また地域環境っていうのにも影響してくると。そこら辺のバランスをどう取るかって言うのが今後まちづくりの課題であり、支援策の検討の課題ということで考えてるところでございます。

○饗庭部会長

今のマンション建て替えの話って割と大きいテーマだと思うんですけど。なんかそういえば入ってないなって気になったんですね、この中に。少なくとも快適で魅力ある住環境というよりは、たぶん4番のところに入ってる。まだ説明いただいてないですけど、パラパラ読んでたんですけど。なんか入れておくといいかもしれないですね、老朽化した集合住宅、特に旧耐震みたいなやつが中野ありそうなので、そいつを建て替えるなり、さらに言うと、要はそれを立て替えつつ周辺地域の関係も一緒に良くしていくっていう話ですよ。やれることっていうのは、だからそんなことは何か項目立てといた方がいいかもしれないですね、4番のところかもしれないなと思いました。アドバイスです。

○安田都市計画課長

住宅担当が来てないんで都市計画担当から、お話しすけれども、先生のおっしゃる通りですね、戸建ての空き家とかそういうの問題になってるんですけども、最近老朽化したマンション、かなりたくさんあって、建て替えがなかなか困難であると。いうことがありますので、今年度から本格的に調査に入っているところです。そういったところも課題にしっかり入れていくことが重要と考えます。

○饗庭部会長

はい。どうぞ。

○五味委員

皆さん今議論やってる最中ですけど。中野っていうのは、昔からなんて言うんですかね。歴史が非常に古い他の区と比べて、一番目立つのは駅周辺には公共用地が非常に多いんですね。これは、要するに昔から中野には備わっていた。今開発なんかしてるところは昔は例えば境内跡地だとか、さっき言いました平和の森だとか、ほとんど公共物が主で非常に公共的な施設を作りやすい時代があったわけなんで、それを今どうするかっていうことに今非常に東京都の都市計画審議会では非常に慎重に扱っているっていうのは、先ほどあの環七の話が出ましたけど、今の東京都は、東京都の人口がどんどん増えて経済活動が非常に活発になって、この30年の間に、一極集中ですか。みんな東京に人間集まるということで、今までは環状6号線の内側だけを住居地域系か商業系かとするに決めたんですけど、最近の都市計画、東京都の都計審は、環六じゃないよと、環七まで拡張しないと、東京都は整備できませんっていうことを発表いたしましたして、そのなかの委員が中野区に在住しておられる、青山さんですね。青山さんがそういうことを唱えても目下ですね、東京都の都市計画審議会は、環六から環七の間をもっと見直そうという作業入ってます。一番極端なのが郊

外に行くとも農地がありますね。農地とどうにか市街地っていうのは一つのまとまったエリアにまとめることができないかということをも、東京都の都計審は考えてまして、実際に試行錯誤でやってみようじゃないかっていうのがこの間、法律化されましたけど、東京都では世田谷区と練馬区に今、農地があるんですが、農地とその市街地を一つ結びつけて、結婚させちゃおうと、そういう発想が出た。それはなぜかという、やっぱりヨーロッパやアメリカのまちづくりっていうのは、農地があつて、その中に高層ビルがあると。そういう農地をうまく媒介してですね。それで建物を作る。そういう考え方に移行しつつある。そういうことは、私も欧米しょっちゅう行ってますけど。そういう考え方でまちをつくと、非常に環境がいい住宅地ができるということで、それは地域を緑化今まで住宅地域っていうのはですね。緑化住居地域という、なんかそういう名前の地域を新しく作りました。これは皆さんまだ気が付いてないんでしょうけど、すでに東京都の都市計画審議会はそういう方向に向かっていますから。だからそういう東京都のこの意見も中野区の行政もよく取り入れてですね、やってみたほうがいいじゃないか。こないだ青山専務と会いましたけども、中野から要望があんまりないんだということをおっしゃっています。以上です。

○饗庭部会長

農地の話はどうしましょう。あんまりないんですけど、中野区って。よく知らないんですけど。

○安田都市計画課長

生産緑地が若干あるんですけど。上鷲宮地域に限定されて、もう10件あるかないかって言う状況です。

○饗庭部会長

田園住居地域のお話をされたんだと思うんですけども、たぶん中野では使うことはないんじゃないかと思えますけどもね。農地マージンのところに農家レストランとかつくれますって、それが来週提唱し、なので、一定層並の環境のところに農地レストラン作ってもいいですよとか、そういうタイプの用途地域なんであんまり関係ないかもしれないですね、あれに関して言えば。八王子とか国分寺がちょっとどうしようかって言ってますけど、私の知る限りではあんまりまだ使いようがないという話を聞いております。参考意見ですね。ご判断いただければと思います。

どうしましょうかねちょっと時間もあれですから、(4)と(5)いってしまって、最後までめて議論という感じにしたいと思えます。お願いいたします。

○永見基本構想担当課長

それでは続きまして「(4) 災害に強い都市」についてご説明申し上げたいと思います。まず最初に危険性が高い地域への対応ということで、災害時の危険性が高い地域では、住民との話し合いが進み、安全・安心なまちづくりに資する計画策定、誘導等が行われ、避難道路の整備や公園の防災機能の充実、建物の不燃化・耐震化等により防災性の向上に取り組んでいる。続いて地域の防災力ということで、地域の防災を支える人材が育成され、日常から地域のつながりを持っている区民が災害時にも協働し、防災拠点の運営が円滑に行われる体制が構築されている。続いて避難時のことをご紹介します。災害発生時、避難所にいる人や在宅避難中の人、来街者など中野区にいるすべての人が正確に必要な情報を受け取り、安心して避難生活を送っている。次は自助に関することで、一人一人が防災に対する正しい知識を持ち、自発的に防災に対する備えを行っている。次が要支援者のことでして、災害が発生しても要支援者が安全に安心して避難できる体制が構築されている。続きまして、ライフラインの維持というところで、被災時でもライフラインが途切れることのないまちになっている。さらに区の協定団体との連携ですね、災害発生時、区が様々な団体と連携し、それぞれが適切な役割を果たし、協力できる体制が整っている。次が、気候変動の影響への対応ということで、気候変動等により起こる新たな災害である大雨や台風の発生による水害、熱中症などに対する対策が行われてる。続きまして空間の有効活用。土地の高度利用等によって生じた空間を有効活用し、防災等の都市機能が向上している。

次が「(5) 地球にやさしいライフスタイル」をご紹介します。環境に配慮した生活というところで、区民一人一人が持続可能な社会を目指し、ごみの減量など、環境に配慮した生活をしていると。続いて、様々な主体の協働による環境づくりというところで、行政や区民、事業者が一体となって気候変動等に対応するための環境づくりに取り組んでおり、区民の日常生活や企業の事業活動に根付いている。続いて脱炭素のまちと、低炭素という言葉がございましたが、脱炭素という言葉で表現させていただきまして、エネルギー消費の高効率化、省エネルギーに合わせて、創エネルギー・蓄エネルギー等による脱炭素のまちづくりを推進し快適な暮らしが営まれている。続いて緑化の話ですね。区民、事業者、区が協働して緑地の保全、緑化の推進に取り組むことで、緑のまちづくりが進み、区民の中に環境への意識が根付いている。最後がごみの排出の関係で、区が定めるルールに従ってごみの分別と排出が適正に行われ、不法投棄もなく、まちの衛生的な環境が保たれている。ということをご紹介します。ご説明は以上です。

○饗庭部会長

皆様いかがでしょうか。はい。お願いします。

○興梠委員

(4) の丸で言うと3つ目になりますけれども、その一番最後のところの結びの言葉なんですが、避難生活を送っているっていうよりは送れる体制が整っているという形の方がいいんじゃないかと思いました。

○饗庭部会長

そのとおりでよろしいですか。

○佐土原委員

どういうふうに表現していくかがわからないんですけども。災害に強い都市を考えると、普段、と、それから、非常時とが、ある程度、連動してという考え方がすごく大事だと思うんですね、この二つ目の丸のところは、確かに人のつながりという視点から、普段からのつながりが非常時にも生かされる、ということでもいい表現だと思うんですけども。たぶん5番目のライフスタイルの環境の取り組みと、それから防災の取り組みがいろいろ連動して、普段と非常時ということになってくると思うんですね。その辺をどんなふうに表現していくのかはちょっと難しいですけど、例えばエネルギーのところだと、低炭素のために、再生可能エネルギーをうまく使うことは、非常時にそれがうまく連動してライフラインも途絶えにくいエネルギーにもなるという視点でまちづくりができていて、ということがうまく表現されると、よりわかりやすいと思いますので、その4と5のつながりもありますし、防災の取り組みの視点として、非常時と平常時がうまく連動して、平常時取り組んでいることがいつの間にか非常時でも大丈夫になっているという。そういった将来の姿が描かれているといいと思いました。

4ページが一番下の高度な土地利用にも関係するんですけど例えば広場を作るということは、環境の緑を増やすとか良い環境づくり、もしかしたら最初の方の快適な魅力あるってということにもつながるんですけど、非常時にもそういう広場がうまく使われるという全体のつながりにもなってくると思うんですけど。そういう視点が表現されると将来のあり方として、いいような感じがしましたので、具体的にどこをどうというのが、明確にはご指摘できないんですけども、意見として申し上げます。

○永見基本構想担当課長

今、委員からご意見いただいた内容を踏まえて、どういった表現ができるかということ

工夫していきたいと思います。

○甚野委員

今の佐土原先生のお話にちょっと乗っかるような形になってしまうんですけども。具体例で言うと協定の部分について、ここで下線の部分でいきますと「災害発生時、区が様々な団体と連携し」って言って災害発生時が主に頭にきちちゃっているんで、ここの表現をもし変えんとするならですね。「平時より区が様々な団体と連携し、それが適切な役割を果たし、災害時にも協力できる体制が整っている」というふうな、常にいつもあると。それが佐土原先生の言葉を借りて、災害時にも有効活用されていると。防災のところでは平時にできないことは災害時にもできないというふうに言われているところですので、そういった言葉が端々で表現されてるとよろしいのかなと。一番最初の、災害時の危険性の高い地域では「いつも」とか、「どこでも」みたいな形の表現が頭にあることによって、常に行われているというふうなイメージが皆様のところにも常にどこか心の隅にでも置いていただければ、動いていくものではないのかなというふうに思いました。以上です。

○永見基本構想担当課長

今ご意見いただいたことなどを踏まえて、そちらの部分の表現も含めて、全体的に、そういったニュアンスを入れていきたいと思います。

○饗庭部会長

なんかちょっと災害多いですね。なんか整理されてないなっていう印象がすごくあって、意見を言いにくいなと思うんですけども、今気づいた範囲でいうと、例えば二つ目の災害の発生時の人材育成みたいな話と、最後から3番目の100団体との連携なんてやっぱり一緒にしっちゃっていいんじゃないかなと。思いますし、あとは一番下の最後の空き地を防災機能を埋め込みましょうっていう話は、一番最初の話にもつながってくると思う。ハードものの話は一緒にしっちゃってもいいかなっていうふうに思うので、もうちょっと整理しないと、なんか読む気がなくすというか、せっかく作ったのに読んでもらえないって感じになっちゃうので、4項目か5項目ぐらいにまとめていただくのが、良いかなというふうに思いました。

それと、あとはですねこれ災害って言いながらも、どうしても地震及び火災が念頭にあるような感じになっていて、後ろの方を取ってつけたように台風、大雨、熱中症みたいなことが出てきてるんですけども、読んでいくと取ってつけたようにこれが出てきていて、大変なんだけど何も考えてませんということしか書いてないんですよ、ここには。この3行

は、最初2行で、対策が必要であるっていうふうにして対策を行われてるっていう、何やるか全く書いてないので、だからこれはある程度ちょっと頭出しをした上で、ここの部分を膨らませるか。それとも、それは建物の耐震化とかそういうところと合わせて、大雨強い住宅を作るとかということがあるのであれば、そういうことやっていくとか、ライフラインに手を入れることによって、排水の性能を上げていくことによって、水害とか防げるんだっていうふうにしライフの方に持っていくか、対策を検討した上で、他のとこに散らすっていうふうにやってた方がいいかなと思います。ちょっと最後から2番目はあんまりだなと。思ったものですから。以上です。しゃべっちゃいました。他いかがですかね。

○甚野委員

ちょっと戻らせていただくんですが、2点、(1)のですね、2ページの一番上の丸のところのまちなかづくりっていう言葉いきなりここで出てくるんですが、まちづくり、まちづくりと言っておきながら、まちなかづくりがでてきたところでまちなかづくりっていうとどうしても中心市街地みたいなイメージがどうしても僕は湧いてしまうんですが、何かここ。まちなかづくりという言葉を選んだ意味であるとか何かそのところをちょっとお話しただきたい。

もう1点。(3)の一番下の西武新宿線の上部空間のところ、中井・野方について一応2021年3月に工事完了の予定ということで話は聞いているんですけども、その状態であれば調整がもう進んで、何かしら10年来の中でいくと活用されていてもいいんじゃないかなと思っておりまして、ここもう一步踏み込んで、「調整が進み、活用がされている」というような言い方がもし区の方でできるのであれば、前向きに進んでいただけるといいかなと思いました。以上です。

○安田都市計画課長

それでは都市計画の方から、はじめの方のまちなかづくりについてです。最近ですね、歩いて暮らせるまちなかづくりという言葉で、よく言われてますけれども、ウォーカブルシティですか、健康に配慮した、お年寄りから子どもまで誰もが歩いて暮らせるまちなかづくりということで、国の事業にもなっております、そういった事業の取り入れを目指して今のまちなかづくりということで入れました。

○千田まちづくり計画課長

もう一つの方、上部空間の方なんですけど、こちらについては今、事業認可期間が来年度までとなっているところなんですけど、今必要な事業進捗に応じてですね、場合によっては、

それについて一定程度見直すときもあるというような状況でございます。これについては若干ちょっと機微な事項で、また事業のスケジュールについては東京都が主体となって調整する事項ですので、もう少しお待ちいただくと、今現段階ではこの表現で進めさせていただければというのが所管の考えでございます。

○甚野委員

ありがとうございます。先ほどまちなかづくりのところで補足させていただくと、国の方では、漢字使ってないんですね。ひらがなで「づくり」なんですね。ひらがなで「まちなかづくり」とされていたので、そこはご訂正いただくか、また今ご説明いただくとその内容については理解はできるんですけども、区民がこれ読んだ時にそれをイメージできるのかっていったところがちょっとクエッションが残ります。ですので、その部分についてはちょっとご配慮いただきながら、再度ご検討いただければと思います。以上です。

○饗庭部会長

今の上部空間という表現が気になっていて、最後に言おうかなと思ってたんですけど、テキストの作りは前半が課題で後半があるべき姿ですよ。というのが基本の組み立てだと思うんですよ。一つの項目について、課題は課題で整理したとして、将来像の10年後20年後こうだというのが示してなきゃいけないと思うんですけど、さすがに情勢が進んでるっていう言い方はないだろうというふうに思っていますね、結局上部空間がこういうふうに使われてるとか、地域のにぎわいの拠点になってるとかやっぱそういうふうにかかないと駄目じゃないかなというふうに思っています、それで東京都に怒られるんだしたら、本気で喧嘩してください。そんな風に口出すなんて。というような感じがちょっとするので、何か妙に現在進行形のことを中途半端に書いてるところが幾つかあるので、ちょっとそこはやっぱり基本構想って将来を見据えた大きい話をするところだと思うので、ちょっとそこは変えていただくしかない、変えていただきたいというのが私からの希望でございます。はい。

○千田まちづくり計画課長

よろしいですか。今いただいたお話についてなんですけど、1点ご説明させていただきたいのが今回連立事業で創出される土地なんですけど、こちらについてはどうしても株式会社の事業用資産というのが、基本的な位置付けになってございますんで、そこについて、区の基本構想として挙げてくには、やはりそこいかに調整して協力を得て、まちのニーズにこたえていくかというところになってきますもので、そういった意味で、株式会社の事業用

資産っていうところに配慮してこのような表現にさせていただいた、というところです。

一方前段についてなんですけど、こちらは事務局ともこの表現について確認したところ、まずこのアンダーラインの引いてないところについては、この部会の中で、あの空間はこうなったらいいねというような意見をまとめたものというところでしたので、それについて表現されたものということで認識しておりまして、それを受けて、今後この基本構想等への反映がされるというのに対しては、我々その事業者との今後協議調整という意味も込めてこのような表現をさせていただいてるという構成になっております。

○饗庭部会長

おっしゃることは良くわかるんですけども、そんなこと言ったら区民にああしろ、こうしろとは言えないじゃないですか。区民の住宅を耐震化しろって書いてあるのだから、同じ理屈になっちゃうので、だから、上部利用空間が特定の事業者決め打ちみたいな感じになっちゃうのは確かに問題かもしれませんから、だとしたら上部空間って言い方をやめるしかないですね。事業によって発生した空間が区民のために有効利用、というそっちの空間の言葉を少し抽象度を上げて表現をするということじゃないかと思っていて、調整が進んでるっていうのは基本構想にあるまじき言葉なので、基本構想のレベルに書くべき言葉じゃないと思うので、やっぱり言えないことは、ターゲットをぼやかして書くっていうふうな工夫していただくしかないかなと。

○甚野委員

今のお話聞いてて思ったんですけども、連続立体交差化が実施されるにあたって、今、饗庭部会長のお話の中にもあったとおりで、鉄道の上部空間だけじゃなくて、いろいろな空間が生じるんだと思うんですね。区で買い上げるところもあるのかもしれないですし、自分自身で逃げてくる方もいらっしゃるのかもしれないんですけども、そういった場所をすべての空間として認識した場合、この文章をもし変えらるるならば、「連続立体交差化に伴い生じる空間については」というように鉄道って取っちゃう。地域の要望と社会のニーズを踏まえ、所有者との調整が進み、活用されている。というふうな活用もしくは活用が進んでいるでもいいですし、特定要素を抜いたところで、全体的なところ、活用できるものを活用していきましょっていった目標のところにおいていくっていうのが一番いいのではないかなというふうに思っておりますが、いかがでしょうか。

○千田まちづくり計画課長

今いただいたご意見について、そういった機微な事項ですね、間違いのないのは、やはり鉄

道事業者として、地域に貢献していただきたいと、そのための調整を図りたいというのもこれ我々の今後の方針でございますので、区の構想という中に位置づけるにあたって今のようないただいた意見ですね、参考にさせていただきながら、ちょっと事務局と再調整させていただきます。

○饗庭部会長

他いかがでしょうか。ライフスタイル系に皆さん何かご意見いただけると。課長がつまらなそうな顔して座っておられるんで、何か悪いなど。ここだけなんかライフスタイルってタイトルなのが、ちょっと浮いてるなどは思ってた、地球にやさしい中野区とか、そういうことじゃないかなというふうに思ったんですけど。中身見ると、必ずしもライフスタイルのことだけじゃなく、住宅こう変えますとか、省エネルギー系のなんか作っていきますみたいなのかちょっと書いてあるので。ちょっとタイトルはライフスタイルじゃないんじゃないかなってというのは思ったことですね。いかがですか。

○波多江環境課長

おっしゃる通り、私もこの現段階でのタイトルがいいのかどうかについて少し考えがあって、環境の今、基本計画を作るための審議会も始まっているところなんですけれども、そういった意味ではちょっともう少し進んだ形のタイトルにしていかなければいけないかなというふうに地球にやさしいって言う場合ではなくて、もう要するに温暖化がどんどん進んでいますから。もう少し、そこの部分が表現されるようなタイトルを考えなきゃいけないのかなという感覚は少し持っていました。ですので、ちょっとここは考えさせていただきたいかなというところです。

○饗庭部会長

何かを考えられるということによろしいですね。他はいかがですか。

○五味委員

私も都内でいろいろなところで呼ばれてやってるんですけど、中野っていうのは、中央線によって完全に南北が分断されてるわけですね、例えば港区だとかあの辺に行きますと、虎ノ門の交差点が道路の上に建物ができちゃった。立体交差化が法律化されて、ああいうものができるようになった。そういうものを発展、中野区にはそういう物の考え方っていうのはまだ薄いんですね。この間、例えばサンプラの南側を立体交差化っていう、あの建物の中を道路が突っ切るという、アイデアは非常にいいんです。ここでは西武線の沿線の西武線の地下に下から立体交差化っていう言葉になったわけなんで。この中央線のこの付近の立

体交差化はやっぱりどこかで例えば、やるべきだと、今度新しく中野駅の西口ができますけど、それもいいんですけど。立体的な交差がしているのは、中野通りの現在の中野駅の西側ですか。それだけなんです。ですから、もうちょっとこの道路と市街地の関係っていうのはねもっとやればできるような地域があるわけですから、都市計画やってる人も経験がないっていえばそうなんですけども、もっと大胆な発想をしてですね、南北のこの中央線を立体化させるぐらいの考え方。今必要だと思うんです。中野駅が今改造をしますけれども、どういう建物ができるかわかりませんが、あの辺りはもっと今のガードの面積の幅を広くするとか、いくらでもやる方法があると思うんですよ。完全に中野の場合は、中央線が、南北を分断しています。以上です。

○饗庭部会長

わからなかったんですけど。JRって踏切が残っていて地上を走ってるんですけどこの辺。鉄道が分断しているっていうのが問題だから上に上げて踏切なくしてつなげようっていうのが連続立体事業で、僕はJR全部終わってるんじゃないかなっていうのは思っていて、西武線やってんじゃないかなっていう認識だったんですけど。まだ足りない部分があるっていう、そういうご意見でしょうか。

○五味委員

中野区が悪いんじゃないんですけども、プロですね、専門家がいる、虎ノ門のような大胆な立体交差ができるとかね、そういうものの考え方はやっぱりこれからやっていくべきだと思うんです。完全に分断されてるっていうのは、例えば中野4丁目から中野2丁目に移るところは長さが約600メートルか700メートル。南に行けないんですよ。だから、鉄道の上にわたった跨線橋は作りやすいんですけど。今言ったように、道路のレベルで南北をつなぐっていう道がないんですよ。その辺は、もっと大胆に物を考えなきゃまずいと思います。

○饗庭部会長

ちょっと中野4丁目6丁目に僕は土地勘がないからわからないんですけども、できてない幹線レベルの都市計画道路があって、それを上に建物があるからできないから立体的に抜くぞっていうのがたぶん虎ノ門だったと思うんですけども、同じようなシチュエーションが中野区にあるかどうかっていうことをちょっとお話をいただいて、現状を共有した上でどうしようかってことだと思うんですけども。場所も含めていかがですか。都市整備の方は。

○安田都市計画課長

基本的な幹線道路でできてないっていうところは、ないんですけども、高架になっていて。ただし、若干都市計画道路で整備が遅れているところがありまして、例えば紅葉山通りなんかは鉄道交差するんですけども、上を通るか下を通るかという話は今、当てはまるのかなと思います。そんなにはないですね。

○五味委員

分断されている一番いい例がですね、そこに囲町ってあります。囲町っていうのは、名前が線路際に残ってしまっていて、あの町っていうのは、中央線が通ったことによって、今中野3丁目と囲町っていうのが完全に分断されちゃった。今でも昔の中央線が通ったときにもっと大きな踏切があったり、跨線橋がしっかりしたのがあったんですけど、今あそこに跨線橋があるんですけど、それは単にあそこを利用する人がいない。従って、中野3丁目と囲町というのは完全に昔の町会じゃなくなってしまった。要するに交流ができなくなったということなんですね。西武新宿線側の新井薬師の駅のところあれ地下化されましたから、完全にそれが立体交差だということなんですけど、もうちょっと考え方をこの中央線の南北に展開して何かいい方法がないかなというあり得ると思うんですよね。それを考えてみたらいかがかなということです。

○石井中野駅新北口駅前エリア担当課長

このペーパーそのものはこの部会のまとめだと思いますので、部会としての意見を取りまとめるものなわけで、今の意見を入れ込むとしたら、もしかしたら、(2)の一つ目の丸のところ、途中で回遊性が高まりということがありますけれども、そこにもうちょっと言葉を足したらいかがかなと思って伺っておりました。道路、車のネットワークっていうのはなかなか難しいところがあるんですけども、今中野駅周辺でやってるまちづくり、再開発などやっていますけれども、その再開発によって歩行者ネットワークを作ろうとしていますので、その歩行者ネットワークの整備によって回遊性が高まりというような表現を足していただいたら、もしかしたら、その分断しているものもですね、歩行者については、さらにそのネットワークで回遊性が高まるということは、表現として入れ込めるのではないかなというふうに思って伺っておりました。

○饗庭部会長

あと全体を見渡して。それでは佐土原委員お願いします。

○佐土原委員

先ほど5番のタイトルの話がありましたけど、4番も「災害に強い都市」っていうのは、表現としては古くて、これだけ気候変動でひどい状況も出てきてるっていうことを考えると、そういうものが起こることを前提に、しなやかに、レジリエンスっていうような言葉も出てきてますので、そういった強いだけじゃなくて、しなやかに災害を受けとめて対応するとか、そういったことも含めた表現にさせていただいたほうがいいのではないかと思います。

○饗庭部会長

それですねもうちょっと時間がありますので、7月の終わりぐらいに全体会というのをやりまして、全体会でこういうことを少し検討したほうがいいんじゃないかっていうご意見いただいているということですね。手元に資料ないと思います。

あとはですねそのあとに、健康・医療・福祉部会の佐藤委員という方から、こちらの部会に対するご意見いただいておりますので、ちょっとその意見を紹介をさせていただいて、少しどう組み入れるかってことを検討していただけないかなというふうに思っております。

資料ない中で恐縮ですけども、第2回の全体会で出た意見というのは3点ございまして、1点目が中野駅前のお話だと思うんですけど、中野5丁目地区の道路拡幅の防災観点から見たまちづくり、をしっかりと勘案して検討されてるのかということが1点ですね。2点目がですね、帰宅困難者対策について、あんまり考えられてないですねっていうようなことがご指摘いただきました。さっきの災害に強い都市にかかわるところです。そして、地球にやさしいライフスタイルに関するところと言えば環境活動団体ってすごく中野区はたくさんあって活発なので、そのことについて触れないのか、というようなことが全体会でいただいたご意見3つでございます。

そのあとにですね佐藤委員からいただいたご意見はですね、やや読んで難しい課題だなと思ったんですが、商店街についていろいろ意見交換がされてるようなんですけども、具体的に大和町では、防災道路整備のための道路拡幅をやっていて、まだ事業前かもしれないですけど、要はそれによって既存の商店街がなくなりつつある。それはとても悲しいことだということでございまして、防災をやればやるほど建て替えを進めれば進めるほど古いものがなくなっていってしまう、ということを懸念しておりますというようなことです。ちょっとご意見長いので端折ってしゃべりましたけれども、1つ目の趣旨はそういうことでございます。防災まちづくりとか建て替えを進めていけばいくほど、商店街のにぎわいとか古き良き雰囲気はなくなっていくんじゃないかと。そしてあと、自転車についてというのが2

番目のご意見でございまして、最近では電動自転車という電動アシスト付きの自転車が結構出てきてますけども、あれも含めて、自転車の交通について、何か考察が欲しいなど。あとは3番目に防災拠点についてですけれども、防災拠点について、学校が防災拠点ということをお前提としていいのかというご意見ですね。災害が起きたときに小学校の体育館とかが避難所になるわけですが、その時に子供たちの学習環境が逆に言えば侵されてしまうということがあるので、それについてどう考えますかというようなことが問いかけとしていただいたということで、佐藤委員からは3点でございます。

全部取り入れるのは無理かもしれませんが、何か皆さんの方でお気づきの点とか、お答えできるのであればご意見いただいて、最後事務局にまとめていただく方向にしたいと思いますがいかがでしょうか。

○佐土原委員

防災拠点を小学校に限定していいかという話はおそらく今、いろんなところで問題になってるんですけど。これまでの木造住宅の地域ですと、かなりひどく被災して、小学校にみんな避難することを前提に、小学校が防災拠点になって、避難物資も届いて情報もそこから広がるという形なんですけど、最近の状況は、相当マンションができてきてですね、それぞれのマンションにいながらにして避難生活を送るということも出てくる中で、ある程度、小学校に行かないといろんなことができないことの不都合も出てきているものですから、そのあたりの仕組みをもう少しフレキシブルにして、自主的にマンションで、避難生活を送れるところは、そういうところをある程度拠点として認めながら、行政の中でも、仕組みを考えなければいけない時期に来てると思います。そういうことと今の小学校で学習の阻害要因になるということと両方解決していく方向で将来的に考えられるといいんではないかというふうに思います。

○饗庭部会長

今日は防災担当課長に伺うべき話かもしれません。

○山田防災担当課長

ご意見ありがとうございます。確かにマンション拠点等も考えられるんですけど、やはり在宅避難が理想なのかなと、目指すところはそこだと考えております。ただやっぱりそういった現状ではないっていうのを、実態がございまして、その辺も含めて今後検討課題として、やっぱり進めていかなきゃいけないのかなと考えてるところでございます。以上です。

○饗庭部会長

文章をちょっと書いておきますかね。4ページ目のところの上から三番目とかが、避難の話がこれは要支援者の話ですけど、避難の時の話がいくつかか書いているところがありますから、そこに在宅で過ごせるように、在宅で何とかなるようにするとか、小学校の学習、児童の学習環境に配慮して、バランスを取るとかなんかそういう文言が入ってくるといいかもしれないなと思いました。書きすぎると辛いんですか。

○山田防災担当課長

今の件につきましては事務局と相談して、記載をする方向で検討したいと思います。

○饗庭部会長

問題意識はごく真っ当なものだと思うので、真摯に受けとめるべきだと思います。ほかの点につきましていかがでしょうか。

○吉村委員

今お話の中にあつた例えば5丁目の道路の話なんですけど、確かにそれは正論だと思うんですが、一方では2ページですか、「世界に開かれた都市活動とにぎわいの中で、中野駅前に多くの飲食店があり」というその5丁目の話だと思うんですね。それが、まちとしてのいろんな可能性とか懐の深さですか。変わるものと変わらないものが共存するっていうことなんですよね。その時に一方的にさっきの商店街がなくなっちゃうと同じように、道路整備をすることによって街の雰囲気は変わってくるわけですから、その価値をどう見るかっていうことだと思います。その時にその価値の中で皆さんが商売とか生活もあり、当然ここまで大きなことまで起きてません。地震があるとまた別かもしれませんが、火災についての何かやっぱり自助努力があるんだろうと思うんですね。それは、今のとこで話されてるような災害の時に對して、日常も大切だということと同じように、皆さんの意識をどう高めるかっていうことだと思いますね。その時に、単にその道路を綺麗にするとか広くするとか逃げやすくするとかっていうことをやればまちづくりとして正解なんだっていうことではないんだよっていうことも言っていく必要があつて、それ以上に今の魅力があつて、これは極端なことですけど、あそこをそのまま残していくことによって、世界文化遺産になるぐらいの、日本の一つの表れとしてなるんだよっていうぐらいをやっていくような意識が必要なんじゃないかなというふうに思います。二度とああいうものができることはないんだろうと思うし、そういったことの意識を変えていかないと、また同じようなことでやっていくことになってしまうかなと。これだけ魅力があると言ってるならば、それをじゃあどうやって守ってやっていくのかと。あれを大きく覆うことによって一つの空間にして、なんてこ

ともあるかもしれませんね。パビリオンのようになって、その中を人が歩くようなところになってるとか、そんなことかもしれないんですよね。ですからその考え方を今変えていく必要があって、一つのフレームだとか一つの考え方で全部整備していけばいいよってということではないんじゃないかな、っていう気がしています。それがたぶん、ある意味の意識づけだったり、それから、佐土原委員がおっしゃったレジリエンスみたいな、やはり強靱さ、柔軟にシなっていくような、そんなところの柔軟性がまちの中で、何かあってもどっこい生きているよみたいな、まちの感覚として、今までもそうだし、これからもっていうところに何かメッセージがあればなというふうに考えています。以上です。

○饗庭部会長

事務局からにしましょうか、もう一度

○石井中野駅新北口駅前エリア担当課長

具体的には中野駅周辺のまちづくりのランドデザインの中でも、その5丁目についてのまちづくりの考え方もありまして、安全とにぎわいが共存してるというようなイメージでまちの将来像を言っています。具体的に何か事業がまだ動いてるわけではございませんけれども、これからのまちづくりをどうしたらいいかという検討を進めているところでございます。今委員の中からあった中野駅前には多くの飲食店がありというところの表現をもうちょっと出したらいかがかと思ひまして、先ほどのご指摘にあったところのやはり安全・安心ですとか、そういったことをこの中にもちょっと入れ込んで、安全性を保ちながらとか、あとは例えば防犯の観点も含めて安心とかですね、そういったことを入れ込んで、変わるものと変わらないものが共存していると。いったことであれば、よろしいのではないかなと思います。

○饗庭部会長

(2) のところに少し3番目の丸のところ少し安全とか防災とかそういう言葉をまぜ込んでみて、今の環境を最優先しつつ、防災性能を上げてくみたいな、そんなことかなと思ひました。書き方としてはですね。具体的にどうやるかっていうのはもう実行部隊で考えていただくしかないと思うんですけど。

○甚野委員

先ほどの質問の中で帰宅困難といったところの案件があったかと思うんですけども、防災の4ページの1つ目の丸のところ「災害発生時、避難所にいる人や在宅避難の人、”来街者など”」とあるので、この来街者のところに帰宅困難といったところは当てはまるの

かなと思います。必要であればこちらの方に文言追加していただくのがよろしいかなと思います。またその上から3つ目の丸、「地域に暮らす要支援者が避難時に」とあってですね、先ほど佐土原委員のお話の中にもありました、避難ありきといったところではなく、在宅避難といったところで検討しますと、ここは被災時ですとか、災害時ですとかというふうな言葉に置き換えていただいて、要支援者が安全に安心して、避難生活を送れるですとか、そういった文言に変えていただいて、いろいろな支援がなされている、お互いで支え合いができているというようなニュアンスの言葉にさせていただくのがよろしいのではないかなと思った次第です。以上です。

○饗庭部会長

ありがとうございました。帰宅困難って何か方針あるんですしたっけ。この辺にとどめておくとか、ここに来られるとかそういうのを作られてるんですしたっけ。

○田中危機管理課長

一応そういう体制は組まれていまして、一応中野駅周辺それから中野坂上とか東中野の周辺、あと西武線の野方・鷲宮では、毎年訓練もやっております、そういう体制ができております。

○饗庭部会長

書き込んででも特に問題ないということによろしいですね。記入するという方向でいきたいと思います。ほか、よろしいですかね。

○甚野委員

他の団体がごみの拾い方とかいろいろやってるよってという話のところを追加して欲しいなっていう話が確かあったと思うんですけども。区内で排出されるごみの話は、5番目のマルのところになるのかなっていうふうなところをちょっと思ってます。ここを環境を綺麗にしているっていうニュアンス、環境美化とか、ごみがないよっていったところで拾い集めてますだとか、誰もが捨てないみたいなのところも踏まえてそこんとところにみんなと協力してなんかやってます、そういったことが協働して行われています、みたいなイメージがあるといい。要は町会・自治会でもごみ拾いとかやられていたりとかされていますし、中野駅前ですとたまにグリーンベスト着ていらっしやったりとかっていう団体さんもいらっしやるかと思います。そういったところが区民全体で環境まちづくりに取り組んでいるといったイメージが伝わるとたぶんおっしゃられたところにつながるんじゃないかなと。いうふうに思っております。

○饗庭部会長

今のご意見でなんか収まるじゃないかなって言うふうに思いましたが、いかがですか。

○川本清掃事務所長

清掃事務所長の川本です。おっしゃるとおり、このごみの問題に関しては清掃事務所の現場だけではなくて、やはり区民の皆様とか、地域の皆様の協力があって、行われてる事業ですので、やはりそういったところを踏まえた表現の方が適切だと思いますので、そういった表現を検討させていただければと思います。ありがとうございます。

○五味委員

今のごみの処理のことですけど。これはかなり大きな問題だと思います。中国が実はペットボトルを処理するために今まで中国っていいところがありまして、処理するときは自分のところで請負うよ、ということであったもんですから、そのごみの処理の工場っていうのは、ペットボトルを処理するために、中国は受け入れてたんです。ところが、数年前にいきなりそれを取り止めちゃった。今の話ですけど、ごみの処理っていうのは相当環境省だとか通産省がその時にしてます。それからつい最近ですけど禁煙タバコをですね。喫煙場所を指定する条例っていうのは東京都議会できまして、ごみの処理の問題と、その喫煙の場所ですね、これはやっぱりことに公の施設である官公庁の庁内ではもう絶対に禁煙だと。それから学校であるとか幼稚園はもちろん禁煙、すでに中央区やオリンピックの開かれる港区だとかあっちの方はすでに施行されております。かなり厳しい規制をやってますけど、中野区の場合は、どの程度喫煙場所の指定をする。ために、行政がどういうふうに今やってるかちょっと伺いたいと思います。

○饗庭部会長

ごみ処理が大変なんじゃないかってお話と、禁煙の話はもしかしたら健康部会かもしないですね。ちょっとこの所掌じゃないかもしれないので、永見さん仕切ってください、そこは。まずはごみの話から。

○伊東ごみゼロ推進課長

ごみゼロ推進課長の伊東でございます。先ほど委員のほうからお話ありましたが、中国がごみの受け入れをストップした問題でございます。これは産業廃棄物としての汚れたプラスチックとかが、バーゼル条約の関係で受け入れがされなくなって、今、日本全国で産廃としての産廃プラが滞留してしまっている。これについては国が動いて、自治体の焼却場で燃やすことができないとか、そういった通知も出ております。区が取り扱うごみについては、

家庭から出るごみが主でございまして、ここに書かれているとおり、きちんとルールにのっ
とって廃棄される。あとは資源がちゃんとリサイクルがされていれば、まちなかにごみがあ
ふれているような状態や、問題となっている海洋プラスチックごみにはつながらないとい
うこととございますので、こちらに書いてあることがきちんとなされていけば問題ないの
かなと考えております。

○五味委員

喫煙場所のたばこの方はどういうふうになっていますか。

○永見基本構想担当課長

たばこに関しては、健康・医療・福祉部会のテーマになってくるのかなというふうに思
いますけれども、今、東京都の方で受動喫煙防止の条例なども出ておりますので、そういった
ところを踏まえて、そちらに投げかけてというような形になろうかと思えます。

○佐土原委員

全体をとおしてあまり議論してこなかったのが、情報技術がいろいろ入ってきて、世界が
変わっていくっていうこと、そのことが、いろんなところに関係してくることで、組み込ん
でいく必要が、これから10年20年先という話になると、あると思います。例えば、エネ
ルギーの仕組みもいろんな情報と絡めて、効率化を図っていくっていうこともありますし、
人の移動でMAASなんかも、最近いろいろ話題になっているとか、防災とか防犯も、人の動き
とかを検知しながらやる、健康も、おそらくいろんなことが起こってくるので、そういう視
点がこの中にうまく組み込まれていくことが、10年20年先の計画ということになると、必
要と思いましたので、できる範囲で入れていただければと思います。以上です。

○永見基本構想担当課長

委員のおっしゃるとおり、そういった状況がどんどん進んでいるということで、社会全体
を覆う部分なのかなと思いますので、どのような形で表現できるかというところは検討さ
せてください。

○饗庭部会長

だいたい出尽くしましたかね。ご意見、ございますか。どうぞ。

○甚野委員

先ほど自転車の話あったと思うんですけども、あれって電動自転車のなんでしたっけ。

○饗庭部会長

自転車についての考察が欲しい。自転車道路の整備や駐輪場等について議論されるのは

どうでしょうか、というのがいただいたご意見です。

○甚野委員

それって交通じゃないんですかね。

○饗庭部会長

交通ここですよ。都市に入ると思われるので、交通はここですね。バスを通すとかそういう話がありましたよね。入るとしたらおそらく快適で魅力ある住環境のところの一番最後が例えばバスになってますから、これにもう1個足すかとかそういうことだと思います。まず施策を聞きましょう。駐輪場と自転車専用道路を作ってる余裕があるのかどうかということをお伺いしたいと思います。

○安田都市計画課長

制度として自転車、駐輪場を含む自転車の利用の環境づくりっていうのは、計画としてできてますので、道路の広さとかによりますけど、自転車専用道路通行帯を作っていくっていうことと、あと自転車をですね、先ほどの歩きやすい居心地のいいまちづくりの中で、一つの手段として、環境にやさしい移動手段ということもありますので、そういったことも積極的に進めていきたいというふうに思ってます。自転車の利用の仕方の全体の流れの中で、先ほどの ICT とかですね、いろんなものもありますけれども、利便性向上のいろんな自転車のスタイルがあります。例えばシェアサイクルとかあるいは、無人自動車とか、そういったことも居心地のいい移動手段、まちづくりの中でも、あると思います。実際にうちの職員が、最近無人自動車の実験を中野坂上でやったんですけども、そういったことに参加したりもしてますので、それも ICT と関わりますけども、取り入れていくのだと思います。

○甚野委員

今のお話聞いて、ちょっと改めて資料を読ませていただいたところ、最後のマルのところにも多様な交通手段とちょっと書いてあるんですね。一応。なのでそのところが、自転車である。って言ったところになってくるのかなというふうに思いました。そこに自転車とか、その駐輪場の話とかも含まれてくるのかなっていうふうには思いました。厳密になんか自転車書いて欲しかったらそこところ自転車とかっていうふうを書くような形になるのかなと思うんですが、あえてここはそのまま多様な交通手段のところ置いてもいいのかなというふうには思いました。

○吉村委員

今に関しては、もう少し住民側の意識としてですね、例えば5番目のところで、このラ

イフスタイルがそのまま残るかどうかわかりませんが、環境に対しての配慮としてっていうところでの2番目にシェアサイクルって一応出てるわけですよね。ですから、そういったことをどう展開するかということだと思ひ、十分に今、自転車の動きあるんでしょけれど、駅前での止め方とかっていうのがまだちゃんとしたルールになってないわけですよね。そこのところでやはり使い方とルールとそれから当然環境にもやさしいとか、自転車で行って快適だとかっていうところが、やはり作られていくべきものだろうと思ひますね。だからそこのところを、うまくこの先整備するとか、整えていくってことを考える必要があるんだらうと思ひますね。そこのところはさっきからあるように、環境にやさしいとか、景観的に例えばそのフィルムコミッションみたいな、絵になるとか、それぞれのシーンなるとかっていうところに整えていくんじゃないかなというふうに思ひます。

○饗庭部会長

はい、ありがとうございます。なんとなく気になるのは、自転車いっぱい走っちゃったら中野区は困るんじゃないかなというところがちょっと気になるので、これだけ狭いので、その辺は、どっちを強調するのか、バスをやっぱ使うっていうふうに、強調していきたいのか、自転車も含めて書き込むのかってあたりは少し慎重にやっていただくとよろしいかなと思ひました。

時間がいい時間だなというのもあります。何か言い残したことがあれば、よろしいですかね。

では終了時間がもうほぼ迫って参りましたので、本日の議事はこれにて終了というふうにさせていただきたいと思ひます。ご協力ありがとうございます。これからのことなんですけれども、今日ご審議いただきました内容を踏まえて、事務局と調整した上でですね、第3回の全体会が9月27日に開催をされますので、それに向けての資料を作成したいということでございます。それにつきましては、でき次第また皆様の方にメールや郵送等でお送りして確認をしたいということでございますので、そういう進め方でよろしいでしょうか。よろしいですかね。はい。ありがとうございます。

それで全部会を合わせた最終的な答申につきましては、全体会でまとめていくということでございます。この都市・防災・環境部会の審議というのは本日のこれが第5回目なんですけれども、これにて終了ということでございます。これまで都市・防災・環境部会の部会員の皆様には、審議等にご協力いただきまして誠にありがとうございました。そして臨時委員の皆様は3人いらっしゃると思うんですけれども、会議に集まりいただくのは、本日が最

後ということでございますので、ありがとうございました。

委員の皆様、臨時委員以外の方につきましては、次第の下に次回の日程が書いてございますが、9月27日が次回、そして最終回が10月18日、それぞれ19時から中野区役所ということでございますのでご予約いただければと思います。では他に事務局から連絡事項ございますでしょうか。

○永見基本構想担当課長

本日最後の部会ということの皆様まことにありがとうございました。今日はお車でいらっしゃる方いらっしゃいますでしょうか。いらっしゃらないようですね。以上でございます。本当にありがとうございました。

— 了 —